

美しい水の情景には
大変な再生物語があります

水と景観

セディアグループ

水の働き

WATER WORKS

VOL.27 2022.08.01

www.waterworks.jp



豊かな水に恵まれた日本
そこには、自然の恵みだけでなく
大切な宝を守ろうとする
人々の“想い“があります。

森林が多く変化に富む地形、そして四季を織りなす雨や雪の情景。豊かな自然は、水と美しい景観を育み、人々の暮らしを支え、また心に潤いを与えてくれます。人と自然、そして人と水が共生する日本は、多彩な景観を楽しませてくれます。また、草花や動物などの多様な生命を育むとともに、人々が集うことで様々な文化を創ってきました。豊かな自然を、美しい水を、多様な生物や文化を残したい。心打つ自然美や景観は、そんな人々の想いによって支えられ、守られ続けていきます。WATER WORKS 第27号、テーマは「水と景観」。今回は、そんな美しい水と景観、そして美しい心が綴る物語を辿ります。

富士山からの贈り物を残したい…

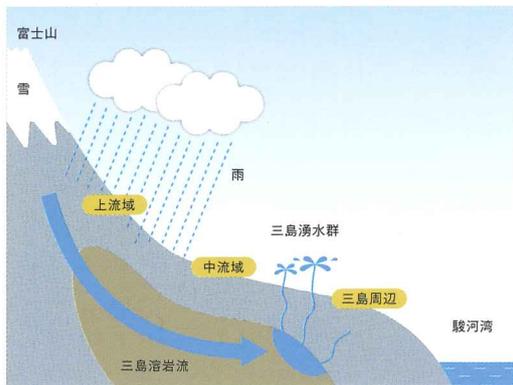
水の都「三島」 再生・復活の物語

今から約1万年前、富士山の噴火によって約30kmに渡る「三島溶岩流」と呼ばれる、水をよく通す地層がつけられました。上流で降った雨や雪は地下に染み込み、溶岩流の中を通り、ゆっくりと下流へ移動します。富士山が育む伏流水※は「三島湧水群」から湧き出し続け、また井戸を掘れば美しい水を豊富に汲み出すことができます。

しかし、高度経済成長期を迎える1960年代、静岡県三島市にある工場の生産活動が活発化し、地下水の利用が急激に増えたことで水資源が一気に枯渇したのです。街の中心を流れる「源兵衛川」は干上がり、かつての清流はドブ川へ。その後、数十年放置された末、コンクリートによる河川の整備事業が動き出そうとしたその時「かつての美しい川を取り戻そう」と、NPO「グラウンドワーク三島」による市民活動が開始し、水の都「三島」の再生復活をかけた挑戦がスタートしました。

※水が染み込みやすい土地を川が流れると水が地中にもぐりこんで流れます。この水のことを伏流水といいます。

【三島湧水群のメカニズム】 水の都「三島」の湧き水はどこから来る？



お話を伺いました!

特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島

イギリス発祥の市民・NPO・企業・行政のパートナーシップによる環境改善活動「グラウンドワーク」を導入。静岡県三島市の水辺自然環境の再生と復活を目的に市内の8つの市民団体が結集、1992年9月「グラウンドワーク三島実行委員会」を発足しました。現在では20の市民団体が参加。源兵衛川が「名水百選」「世界水遺産」などに選定される他、環境再生活動、地域再生、農業再生、環境コミュニティビジネスなどの取り組みは、国や自治体をはじめ様々な団体から高く評価を受け、表彰されています。



専務理事 渡辺 豊博 さま



源兵衛川

を巡る

源兵衛川の過去

Genbee-gawa history

昭和30年頃までは水量が豊富で美しかった源兵衛川。農業用水だけでなく、カワバタ[※]で野菜を洗うなど住民の生活用水としても利用されていました。

高度経済成長期、地下水の汲み上げなどにより川の水は枯渇し、生活雑排水の流入やゴミの放置などで水辺環境が悪化しました。

※川のほとりや川のふちのことをカワバタといいます。



湧水が豊富な頃の源兵衛川（昭和30年代）



水辺環境が悪化した整備前の源兵衛川（昭和50年代）

市民が主役！ 行政や企業を動かす活動

工場の地下水汲み上げによって枯渇した源兵衛川。1960年代から1990年までの約30年間、源兵衛川は「汚れた川」のシンボルとなっていました。そこで、多くの市民が立ち上がり、NPO・企業が協力して環境改善を進める市民運動「グラウンドワーク三島実行委員会（現NPOグラウンドワーク三島）」が誕生しました。地域住民の声をもとに、グラウンドワーク三島が関係者相互の調整役となり、8つのゾーンからなる親水施設が整備され、協力しながら源兵衛川の水辺環境の再生に取り組みました。この活動は行政も動かし、三島市は92年から延べ10年以上かけ、せせらぎを取り戻す事業に本腰を入れたのです。また、民間企業としては、東レ三島工場によるきれいな冷却水の放流により川の水量が安定し、2000年代初頭、清流が見事に蘇ったのです。



約1.5kmにわたる水の回廊

8つのポイントからなる親水施設を整備

水辺環境づくりで大切なのは治水・利水・親水

安全な環境を整備し、従来の農業用水としても利用でき、何よりみんなが楽しめる憩いの場所となること。自然を体感し、美しい水との触れ合いを大切にした新生「源兵衛川」は、「水と景観の魅力」を五感を目一杯使って楽しむことができます。



伊豆箱根鉄道
「駿豆線」D
遊歩道には駿豆線の鉄橋の下をくぐる近道があります。走る電車を橋の下から見る事ができる、人気の撮影スポット!



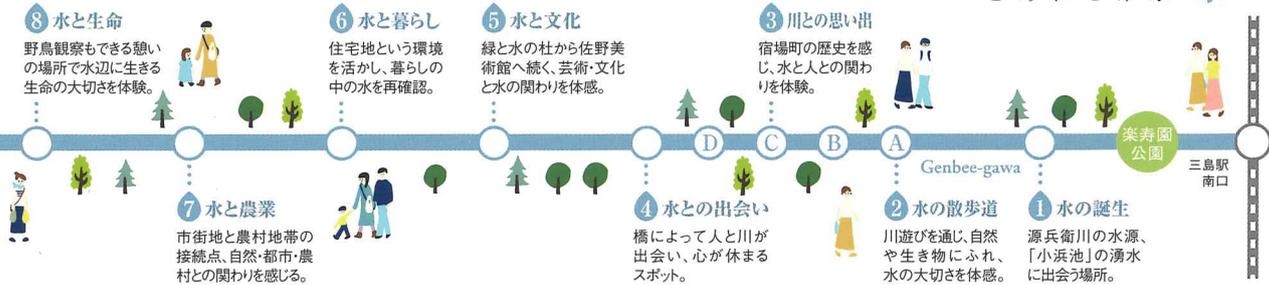
自然と建造物が交差する風景
「時の鐘」C
江戸時代から旅人や三島の人に親しまれてきた時を告げる鐘。現在の鐘は昭和25年に市民の有志によって再建されたものです。



今も残るカワバタ手押しポンプ
懐かしい風景B
昔は洗濯や野菜を洗うなど生活用水として使われてきました。川に面した家屋にはその名残の「カワバタ」が残されています。



川の中を歩く
遊歩道A
まるで川の中を歩く散歩道。鳥のさえずり、川のせせらぎに耳を澄ませ、緑のトンネルをくぐります。



源兵衛川にはゴミが捨てられて悪臭を放ち、人も近寄りなくなりました。それが数十年続いたのです。私は毎日出勤前に約1時間「ゴミ拾い」をしましたが、誰も関心を寄せず、さらにはその上から「心を変えない」と街も川も変わらない！そう決心し、住民、企業、行政をひたすら訪ね歩き、訴え続けました。なぜこうなったのか、どうすれば再生できるのか。現場から目を背けず、まずは知ることです。やがて源兵衛川再生への機運は高まりはじめたものの、今度は住民、企業、行政の意見がかみ合わない。1年間に84回、3年で200回以上、会合や対話を続けました。お互いの立場を理解することで「対立ではなく協調」を目指したのです。そして各々が100点満点のゴールではなく、お互いが歩み寄れる65点の目標を立てました。情報発信、話し合い、そして自分の背中を見せる。美しく生まれ変わった今も、源兵衛川を見て、知って、もっとこの川を続けています。この川がいっまでも美しくあつて欲しい。そう願う一人ひとりの心が、この川を守り続けることにつながるからです。

「源兵衛川」復活のカギそれは、現場を知ること！



Interviewee



※G…グラウンドワーク

絶滅危惧種も自生する 豊かな生態系

源兵衛川は整備事業が終了した2000年以降も、「源兵衛川を愛する会」など地域住民により、生態系を守り育てる地道な環境改善活動が続けられています。その結果、希少なホトケドジョウ（環境省レッドリスト絶滅危惧IB類、静岡県レッドリスト絶滅危惧IA類／県東部）、ミシマバイカモ（静岡県絶滅危惧II類）をはじめ、ゲンジボタル、カワセミなどが自生するようになり、都市中心部を流れる河川としては他に類を見ないほどの豊かな生態系をもつ水辺自然空間が再生されています。源兵衛川は灌漑用水※であるとともに、生物多様性を維持する貴重な環境で、地域住民だけでなく多くの観光客をも惹きつける魅力あるスポットとなっています。

※田畑を潤すに必要な水のことを灌漑用水といえます。



源兵衛川で育てられるミシマバイカモ

源兵衛川ホテル観察記録

2014年 延べ1,232匹
2015年 延べ1,409匹
2016年 延べ1,856匹
2017年 延べ2,078匹
2018年 延べ1,655匹
2019年 延べ1,445匹
2020年 延べ2,486匹
2021年 延べ2,600匹
2022年 延べ3,263匹
(22年6月19日時点)

源兵衛川に自生するゲンジボタルの数を毎年集計。観察を開始した2014年が延べ1,232匹だったのに対し、直近の2022年では延べ3,263匹と、この8年間で倍増していることが確認されています。

源兵衛川で
見られる
生き物



ムタノキ



ハンノキ



カワセミ



ゲンジボタル



ミシマバイカモ



ホトケドジョウ

市民活動「グラウンドワーク三島」で「水の都」復活&地域活性化！

「グラウンドワーク三島」が取り組んだこれまでの事業は約70。10年後には1000の事業を推進していくことを目指しています。また、インストラクター「源兵衛川エコレンジャー」の養成をはじめ、小学校での環境出前講座の開催など、水の都の宝物を守り育てる市民主導の活動や水質保全の清掃活動などを継続して行っています。

グラウンドワーク三島の

実施プロジェクト（一部）

01 松毛川



地域住民とともに「千年の森」づくりに向けた自然観察会や植林活動などを実施しています。

02 境川・清住緑地



自然観察会や住民参加のワークショップを開催。地域住民の意見やアイデアを収集した地域固有の生態空間を再生しました。

03 鏡池ミニ公園



かつては富士山からの雪解け水が湧き出た水源地。湧水が涸れた井戸を歴史的遺産として、町内会や地元企業とともに整備しました。

●主な水質保全活動

毎年5月第2土曜日に源兵衛川などの市内河川清掃を実施。毎月第1土曜日には「ゴミ拾いツアー」を実施。10月には「ゴミO(ゼロ)大作戦」として市内河川や東海道の清掃。「源兵衛川を愛する会」が毎月、河川清掃活動を実施。

04 雷井戸



1年を通して湧水が自噴する市内最大の井戸。地域住民や企業との協働により整備を進め、維持管理を行っています。

05 教育機関などのピオトープ※



子どもが生き物と親しく触れあう場づくりとして、地域の保育園や小学校、中学校、高校などにピオトープづくりを推進しています。

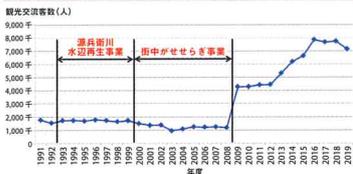
※生物が自然な状態で生息している空間のことをピオトープといいます。

Interview

是非、せせらぎの街を体感してください！

「グラウンドワーク」活動を成功に導くためにはビジネス感覚が重要です。環境の再生や都市整備には資金が必要ですが、そこから調達するか、利益をどう生み出すかなど、会社経営と同様の知識や発想が求められます。そのため「グラウンドワーク三島」では30〜40代の若き経営者、これからの社会を牽引する次世代のリーダーが力を発揮しています。水や自然を守るだけでなく、人を回遊させることにも注力しています。例えば、カフェや飲食店を誘致することで街全体に活気が溢れてきます。「源兵衛川水辺再生事業」と「街中がせせらぎ事業」が終了した2009年以降、三島市の観光交流客数は一気に増加し、2019年には事業開始前の4倍にまで伸びました。課題の調査、分析、綿密な計画、具体的なアクションプランなど、事業の途中段階では成果が見えずとも、着実に計画を進め、ゴールを目指した結果です。是非、実際に源兵衛川や街中のせせらぎを肌で感じ、「グラウンドワーク」活動の可能性を感じていただきたいと思っています。三島市へのご来訪をお待ちしています！

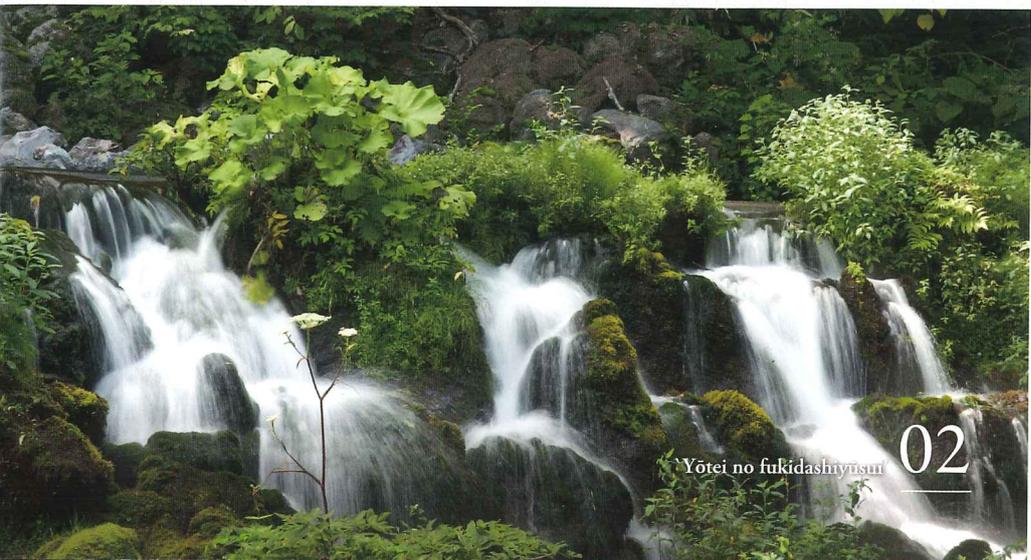
三島市の観光交流客数の推移





Beppu bentenike

01



Yōtei no fukidashi-yūsumi

02

The spectacular view,
the pride of Japan.

日本が誇る
自然界の
絶景



03 'Akame shuiyuhara aki

01

山口県

「別府弁天池」

カルスト地域に見られるコバルトブルーの伏流水で、長い時間をかけて濾過された美しい水が、毎秒約168L湧き出しています。秋吉台国立公園の敷地内で管理され、水位変動や流量、水質、水温（1年通して14.5℃）などが定期的に調査観測されています。

02

北海道

「羊蹄のふきだし湧水」

羊蹄山山麓の湧水の一つ。山に降った雨や雪が数十年の歳月をかけて地下に浸透し湧き出しています。湧水のある公園は環境緑地保護地区に指定され、自然を残したままで保全されているほか、地元住民団体や町などによる清掃活動が定期的に開催されています。

03

三重県

「赤目四十八滝」

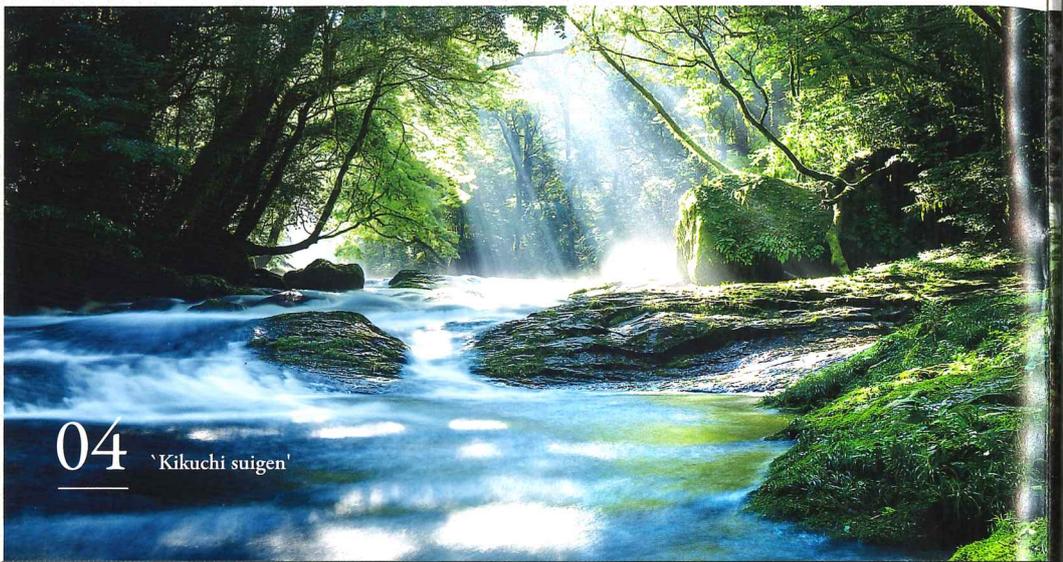
赤目四十八滝の中でも、不動滝、千手滝、布曳滝、荷担滝、琵琶滝の5つの滝は、人々を圧倒させるほどの迫力があり、滝行で身を清める水としても使われています。森林の活性化をはじめ、NPO法人による環境保護やホテルの保全活動も行われています。

04

熊本県

「菊池水源」

菊池深谷にある県北最大河川の水源で、オオサンショウウオが生息するなど豊かな自然が残されています。維持管理協力金として入谷料を徴収し、自然環境の維持、河川整備、施設補修などの管理費として使用するほか、地域住民を中心に年間を通じて保全活動を行っています。



04 'Kikuchi suigen'



Art biotope nasu "MIZUNOYA"

01

画像提供：株式会社ニクンモ



Shiroyone senmaida

02

人と自然の共作 麗しの 造形美

Beautiful
formative art
created by humans
and nature.



Ashigakubo no hyocyū

03

栃木県

01

「アートビオトープ那須『水庭』」

隣接する森から移植された300本以上の樹木と1600の池を組み合わせたことにより誕生したランドアート「水庭」が見どころです。緻密な設計により土地の歴史を再構成したアート作品として、クールジャパンアワード2019など数多くの賞を受賞しています。

石川県

02

「白米千枚田」

日本海に面した約4haの面に1004枚もの小さな田が連なる棚田。2001年に国指定名勝に指定、2011年には日本初の世界農業遺産に認定されました。「白米千枚田愛耕会」が結成され、オーナー制度を取り入れて棚田の保全活動に取り組んでいます。

埼玉県

03

「あしがくぼの水柱」

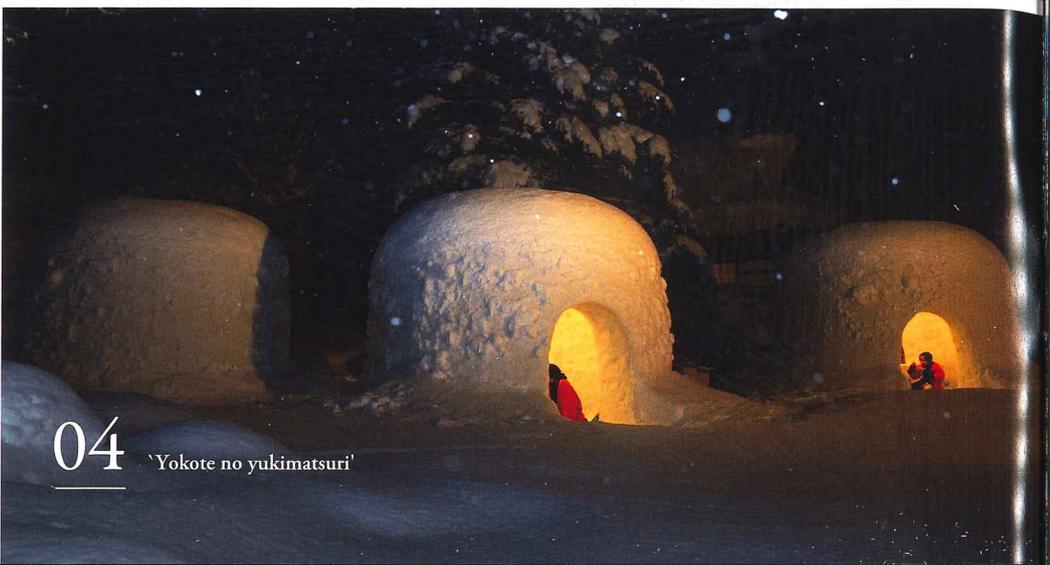
秩父三大水柱のひとつで、人の手により創られた作品です。山に囲まれた自然豊かな盆地で、1日の寒暖の差が大きく、氷柱ができる条件に適しています。夜間はライトアップされて幻想的な光景を演出。使用済み天ぷら油を電力として利用するなど環境に配慮しています。

秋田県

04

「横手の雪まつり」

横手の「かまくら」は、約450年の歴史があると言われ小正月の伝統行事として、かまくらの中に祭壇を設け、水神を祀ります。また市内の約80基のかまくらでは通りがかりの人を招き入れ、甘酒や焼いた餅を振舞って楽しめます。（毎年2月15日開催）



Yokote no yukimatsuri

04

SEDIA
SYSTEM

水・住まい・農業の明日へ。

渡辺パイプ株式会社

〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10 浜離宮パークサイドプレイス6F
TEL.03-3549-3111(代) FAX.03-5565-6361
www.sedia-system.co.jp

- 業務内容／管工機材、住宅設備機器、電設資材の販売、並びに温室の設計・施工、販売
- 創業／1953年12月8日
- 社員数／5,264名(2022年4月現在・グループ計)
- 年商／335,479百万円(2022年3月期・グループ計)



渡辺パイプは環境省が推進する
「Water Project」に賛同しています。